



2024年 9月22日
第44号

JR東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 梶田 優一
編集 情宣 担当
ホームページ



<http://www.jreu-yokohama1.jp/>

信越地本協力のもと

長野県で横浜地本平和研修を行いました

9月6日・7日にかけて、長野県は上田市～長野市において、信越地本協力のもと、平和研修を行いました。上田市では戦没画学生の絵画や遺品を収蔵している、慰霊施設を兼ねる美術館「無言館」を見学、長野市では松代の象山地下壕、いわゆる「松代大本営跡」を見学しました。

戦没画学生慰霊美術館 無言館

第二次世界大戦中、兵隊として戦地にてお亡くなりになった画学生の作品と遺品を展示する美術館です。残された作品や、戦地での生活の一部を垣間見られるような遺品なども展示されています。「**お国のために死ぬるのは男子の本懐**」と語りながらも、戦地で書かれた手記には「**こんなことをやりたくない**」と綴られている手記が印象的でした。



松代象山地下壕（松代大本営）

東京では海が近く防衛上に問題があるとして、首都機能を内陸部に移す構想が極秘裏になされ、1944年11月11日11時11分から建設を開始、選定理由のひとつに「地盤が固い」とされた松代の固い岩盤を、発破を用いながら人力で掘り進みました。過酷な作業は12時間二交代制で行われ、造られた地下壕は碁盤の目のように四方に広がり、その総延長は10kmにも及びます。



日本人労働者以外に韓国人労働者も動員されたほか、熱海鉄道教習所の生徒も動員されたという記述もありました。

1945年6月22日に一応の完成となり、沖縄に向けて完成の打電が行われました。翌日の6月23日、沖縄守備の第32軍牛島満司令官は「悠久の大義に生くべし」の司令を残したまま自決し、参謀共々自決をしたため、沖縄戦の組織的戦闘は終了しましたが、残された司令のために更に多くの方が犠牲になることとなります。

天皇御座所（松代舞鶴山地下壕の地上部）

松代の地下壕は3カ所で掘られ、そのうち舞鶴山地下壕に皇居や賢所（神器「八咫鏡」を祀る部屋）が計画されますが、天皇だけは地上にすることができる御座所が設けられました。建物は現存しており、とても1945年の建物とは思えない完成度の高い建造物で、現在は気象庁の施設として使われています。



**戦後80年目をむかえる今、あらためて
各地に残る戦争の爪痕から考えてみませんか？**